木野通信
KINO PRESS
NO.37

大学教育とリテラシー

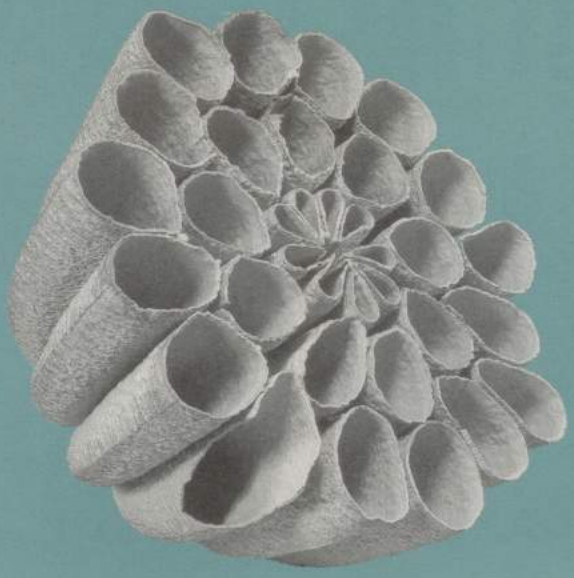
学長◎中尾ハジメ NAKAO Hajime

支配階級の人間だけでなく、多くの人びとが文字を使い、読み書きができること、つまりリテラシーは、近代社会の条件だったはずです。しかし最近よく耳にするようになった「情報リテラシー」という言葉には、こまったことに、もともとの「読み書き」に含まれていたはずの大事な意味が抜け落ちているように思われることがあります。情報機器が操作できるかどうかにばかり焦点があたり、人びとが読み書きをすることによって、深く考えたり、自立した個人として問題を提起することができるというリテラシーの意味合いがどこかへ消えてしまったようです。自立した個人とは、言うまでもなく、意識的かつ批判的に考える人間のことです。

情報機器の発達だけではなく、テレビのようなメディアの発達も、もともとのリテラシーつまり読み書きの、この重要性を忘れることに無関係ではないでしょう。市民が意識的かつ批判的にメディアを読み解かなければならない状況になっているので、「メディア・リテラシー」の必要性が語られている時代です。

一方で、若者の半数近くが大学で学ぶ時代とは、かつては一部のエリートに独占されていた知の世界に、さらに多くの人びとが加わるようになったことを意味しています。知とは、過去から受け継がれてきた知識を扱うばかりではなく、現在を生きる私たちの問題を明らかにし表現するという主体的な働きのことです。本来のリテラシー、つまり本を読み新聞を読み、自分の見聞きしたこと、考えたことを文章に書き人に伝えるということが、なによりも大切なことは言うまでもありません。

京都精華大学は、このような重要性を、あらためて強く意識し、今年から人文学部のカリキュラムのなかに日本語のリテラシーを伸ばすための科目を置くことにしました。日本語を母語とする若者にとって、なによりも日本語で書かれたさまざまな学問・芸術の文章あるいは作品が読みこなせるようになること、そしてまた、一人ひとりが日々とらえている重要な主題を文章に表現できるようになること。これが、日本語リテラシー科目の目標です。この科目は年度ごとに充実し、より多くの学生が履修できるようにしていく計画です。○×式のテストで点を取ることが目標でもなければ、日本語の「正しい」文法をただ学習することが目標でもありません。あくまでも、考えるため、表現して伝えるための読み書きの力を解き放し、さらに向上させることが目標です。これまでも、この大学の学生諸君は、卒業するまでには自ずとこのリテラシーを発揮するようになり、他大学の人たちが羨ましがる成果が示されることも少なくありませんでした。この特徴をさらに押しひろげ、京都精華大学の教育の大きな基軸であるようにしていきたいと思います。これはまた、芸術学部の学外実習や人文学部のフィールドワークがそうであったように、日本の大学教育のひとつの新しい模範となるにちがいありません。



「crisp 2003」 唐木知里 099C009

野
京都精華大学
KYOTO
SEIKA
UNIVERSITY

通

信

木野通信 第37号2004年3月24日発行
京都精華大学企画室
〒606-8588
京都市左京区岩倉木野町137
TEL 075-702-5201

NEWS

大学院芸術研究科博士前期課程を再編

「造形専攻」「デザイン専攻」の2専攻から「芸術専攻」へ

2004年度から大学院芸術研究科の博士前期課程が、現行の「造形専攻」「デザイン専攻」の2専攻から、「芸術専攻」の1専攻となる。

芸術の領域が、従来の古典的な枠組から脱却し、新しい表現の創造に向けて拡大しつつあることを背景に、京都精華大学大学院芸術研究科の博士後期課程は、2003年4月に、領域にとらわれない「芸術専攻」1専攻として開設した。同様に、前期課程も「芸術専攻」1専攻への改組を本年度文部科学省に届出し、受理された。

また、芸術を志向する学生の裾野の広がりを受け、芸術研究科においてもこの要望に早急に応えていくため、芸術研究科博士前期課程の従来の定員20名を25名とした。

新しい大学院の特長

新しい博士前期課程「芸術専攻」は従来通りの、理論科目と実技演習系科目から構成される。現代社会の急激な変化に対応して「現代」「先端メディア」「デザイン」の要素を持つ芸術理論課目を配置。これは博士後期課程の「ファインアーツ領域」「アート&メディア領域」に連動するもので、「現代デザイン特講」「先端メディア特講」「パフォーミング・アーツ特講」「芸術工学特講」等がある。

一方、演習科目においては、テーマ性を共通のキーワードに、複数教員・院生のプロジェクトが共同運営する「プロジェクト演習」、素材という切り口で領域横断的に指導する「素材演習」、および「プレゼンテーション演習」等を、新たに開設。科目の充実により次世代の中核を担う表現者、研究者を輩出することが期待される。

大学院の詳細については
左記までお問い合わせください。
京都精華大学　教務課
075-702-5119

NEWS

大学の持続的な発展をめざして

教育推進センターを設置

18歳人口が減少し、社会の変化のスピードがますます増していくなかで、大学間の競争も激しくなっている。

こうした状況を受けて、継続的に教学のあり方を点検・評価し、改善をはかり、特色ある教育を実践していくために、「教育推進センター」が設置されることとなった。

「教育推進センター」は、入学前教育から、学部、研究科までの教育に関し、他国、他大学の状況、関連省庁、団体等の情報収集を行い、本学における教育の質的向上のための提案を行うことを主な目的とする機関である。

また、授業評価や教職員の能力資質向上、国際主義・人間形成などの本学の建学理念実現のための調査研究、提言も行うことになっている。

本学の教育の更なる発展を担う機関として期待されている。

特色ある教育の実践も担当

「教育推進センター」ではこうした目的に関連して、当面の間、特色のある教育の実施にも取り組んでいく。

2004年度から以下の教育プログラムが人文学部で実施されることが決定している。

【入学前教育】入学予定者および志願者に対し、入学前の教育を行うもの。既に、人文学部アドミッションズ・オフィス入試の合格者に実施されており、本学の緻密で丁寧な教育姿勢を示すものとして高い評価を得ているが、今回その体制の一層の充実を図る。

【日本語リテラシー教育】日本語を母語とする在学生に対して、日本語による読解の深化と正確性の向上をはかり、それを踏まえた的確な日本語表現を身につけることをめざすものである。

NEWS

八瀬陶窯寄贈

新たな伝統工芸拠点を形成

このたび財団法人八瀬陶窯が京都精華大学に寄贈されることとなった。

八瀬陶窯は、人間国宝にも認定された陶芸家・石黒宗麿（いしぐろむねまろ）が八瀬に陶房を築いたことにはじまり、その後、京都府の認可を受け「財団法人八瀬陶窯」となった。しかし近年その活動が停滞気味となっていたため解散することが決定され、その財産を、京都精華大学が設立の趣旨を引き継いで、土地や施設を活用させていただくことになった。

具体的には京都市左京区八瀬近衛町の山林や宅地、付属建物などをご寄贈いただく。

京都精華大学では、陶芸も含めた伝統工芸全般について、学生ばかりでなく広く市民が体験的に学べる空間として利用する構想を持っており、今後検討を進めていく予定である。

内部にろくろ台が並ぶ陶房

KINO PRESS
KYOTO SEIKA UNIVERSITY

NEWS

国際的芸術系大学のネットワークへ日本で初めて加盟

CUMULUS（クムルス）への加盟承認

ヨーロッパを中心とした、美術・デザイン・メディア系大学の連合であるCUMULUS（クムルス）へ、京都精華大学が日本の大学として初めて加盟することになった。

文化・社会・経済のグローバル化や技術の発達が進む中で、美術・デザイン・メディア領域の教育や研究の重要性は高まってきている。クムルスは、大学教育が美術・デザイン領域の変化に対応していくために、ヨーロッパの主要な教育機関によって1990年に設立された。その規模と活動は拡大しており、2004年3月現在40数校が加盟、トップレベルの教育機関をひとつにまとめる活発で柔軟な学問的な評議会として運営されている。

京都精華大学の加盟は、クムルス理事会で申請が承認され、2004年5月の年次総会での正式決定を待つばかりだ。クムルスと提携を築きたいという北米やアジア、オーストラリア等の大学や機関からの注目も広がる中、ヨーロッパ以外では、中国北京の中央美術学院に次ぎ2校目となる。

卓越した美術デザイン系大学の連合、クムルスに加盟することにより、すでに確立しているネットワークの組織力を本学の教学に活用することができる。個別に協定を結び、交換留学の促進、合同展覧会や共同研究など、さまざまなプロジェクトを立ち上げたり参画することも可能となる。

また、毎年行われる総会は、デザイン分野における教学に関する最新情報の交換の場となっており、職員研修や学生対象のワークショップも開かれている。美術・デザイン・メディアに関する研究を発信する場で、京都精華大学がさまざまな発表や提案をおこなうことは、日本における芸術系大学の中での京都精華大学の存在意義をヨーロッパ全土に高めるよい機会となるであろう。

設立主旨や加盟大学が掲載されているクムルスHP。
http://imo.uiah.fi/cumulus

NEWS

活発に展開する芸術学部交換留学

協定校が新たに2校加わって10校に

京都精華大学では協定校との間で学生交流を推進する目的で実施されているプログラム、交換留学が活発である。芸術学部交換留学生は本学に在籍したまま協定校（学生交換留学協定を結んでいる海外の大学）へ1学期間留学ができる。

2004年度からは次の2校が派遣大学に追加された。

新しく協定校に加わったアメリカ・ニューヨーク州の「クーパーユニオン」は米国でも古く著名な大学の一つで、美術、建築、工学の3学部で構成。美術学部では、アートとデザインの領域において、将来広い範囲にわたって必要な技術・知識をバランス良く身につけることを目標とし、専攻分野を必要としないという特徴を持つ。

もう1校の「カリフォルニア芸術大学」はアメリカ・サンフランシスコにある施設の充実した芸術大学。「アメリカベスト大学院一覧」によれば美術分野で10位にランクされるなど高い評価を得ている。

活発に展開する交換留学

交換留学協定校が2校増えたことで、芸術学部の派遣大学は10校となり、学生にとってレベルの高い海外の大学で学ぶチャンスが広がった。単に協定校の数が増えているだけではない。具体的に学生たちの留学実績に結びついている。2003年度は8名を派遣、アメリカ・イギリス・オーストラリア等から6名を受け入れた。2004年度は、芸術学部の様々な分野から30数名の応募があり12名が派遣される予定だ。

施設整備および教育研究事業充実に関する募金についてのお願い

施設の充実、教育・研究の発展にかかる経費のご寄付ご協力をお願いいたします。寄付金は一口五万円からとなっております。詳細につきましては「募金要項」をお取り寄せください。

この寄付金につきましては、文部科学省から「特定公益増進法人であることの証明書」の交付を受けていますので、所得から税金控除を受けることができます。

詳細のお問合せや募金要項のお取り寄せは、左記までお願いいたします。

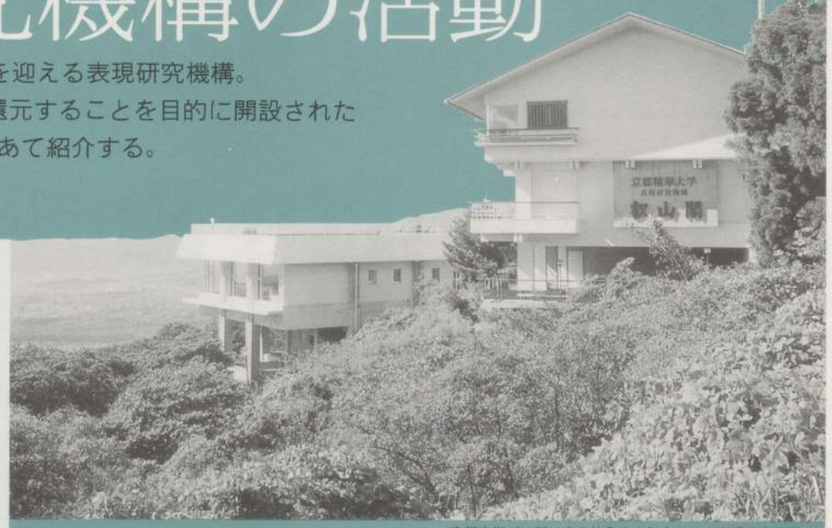
京都精華大学企画室 075-702-5201

KINO PRESS
KYOTO SEIKA UNIVERSITY

SPECIAL EDITION

精華と社会をつなぐ表現研究機構の活動

2001年に開設し、ことしで3年目を迎える表現研究機構。
今回は、大学の知的財産を社会に還元することを目的に開設された
本学研究機関の事業活動に焦点をあて紹介する。



京都市街が一望できる比叡山を拠点とする表現研究機構

京都精華大学　表現研究機構

表現研究機構は、本学が設置する研究機関。人材育成や研究成果の公開に力を注ぐ「オープンリサーチセンター」として文部科学省に認定された日本でも数少ない研究所のひとつである。ここでは、本学ならではの学問領域を探求する3研究所が活動し、研究成果を社会へと還元している。

文字に焦点をあて、文字言語と文明、文化、芸術表現との関係を明らかにする「文字文明研究所」。マンガを学問としてとらえ、マンガと他文化との融合・発展を考える国内初のテーマをもつ「マンガ文化研究所」。ネットワークアートの普及と開拓、映像制作・編集に向けた人材の育成をめざす「映像メディア研究所」――。いずれも独自の研究内容で新たな"表現"を追求している。

自治体・企業との連携事業で研究成果を社会に還元する

表現研究機構は、他大学では類を見ない本学ならではの研究活動に取り組んでいることから、新領域のパイオニアとして各界から注目され、事業協力依頼が急増している。これらに対しては同機構の研究事業部が窓口となっている。ここではその代表例を紹介する。

鎌倉市の観光PRプロジェクトに参画

「年々減少する若年層の観光客に、鎌倉のすばらしさをアピールしたい」。鎌倉市からの依頼で2002年夏から取り組んできたプロジェクトが2003年5月に実を結んだ。この事業のクライアントは、鎌倉市観光協会。ことし120周年を迎える海水浴場の記念誌を、若者が親しみやすいマンガという表現手法で制作したいという依頼だ。大学生の男女が、鎌倉の観光スポットをデートしながらお互いの想いを深めていくという、エンターテインメント性と観光訴求力を兼ね備えた企画は、マンガ表現の可能性が活かされた画期的でユニークなものとなった。

記念誌「鎌倉の海」

NTT西日本と共同でマンガ添削システムを開発

第一線で活躍するマンガ家であり本学の教員、マンガ文化研究所の研究員として多岐に活躍する竹宮惠子氏。竹宮氏がNTT西日本と共同で開発をすすめてきたのが、インターネット上でのマンガ添削を実現するシステムだ。インターネットを活用した添削システムは、これまでファックスではうまく伝達できなかった色彩やこまかなディテールを双方向に伝えることができる。また、本システムでは、画面上でページをめくるように複数枚の作品を閲覧することが可能。通信教育分野でも注目を集める画期的なシステムが表現研究機構から生まれた。

そのほか関連事業

- ○京都府舞鶴市
  市民マンガ連続講座／舞鶴自然文化園を活用した地域づくり企画・立案
- ○京都市
  「第3回世界水フォーラム」広報ビデオ制作
- ○（財）大阪市スポーツ振興協会
  大阪ドーム内ギャラリースポーツマンガ野球編展示・企画
- ○三重県人権センター
  人権問題教育漫画制作
- ○「若狭路博2003」
  福井県小浜市高浜町砂像コンテストおよび記録撮影、ヒーリングコンサート企画
- ○松下電器eネット事業部
  ブロードバンドによる遠隔講義配信サービス共同実験　など

学生をプロジェクトの中核に据え実践的な学びのチャンスを提供

表現研究機構では、各方面から依頼されるプロジェクトに積極的に本学学生の参加をすすめている。現実社会の"仕事"に在学中からたずさわれるチャンスが増えたことで、学生自身の成長はもちろん、本学と社会との距離も飛躍的に近づいた。

世界水フォーラムの広報ビデオを作成

2003年3月に開催された「第3回世界水フォーラム」。映像メディア研究所では、京都市から市民への啓発用ビデオ制作を依頼された。制作にたずさわったのは、映像メディア研究所主催のドキュメンタリー講座を受講した本学の学生たち。京都の伝統的な食文化や産業と水との関係性を、美しい映像と明快な語り口で編集し世界に発信した。このビデオは英語版も制作され、メイン会場である国際会議場をはじめ関西のニュース番組などでも放映。自治体と学生の連携として話題を呼んだ。

企画・作画力を自治体ツールにいかす

前述の鎌倉市観光協会依頼のプロジェクトも、企画から制作までマンガ学科の学生によるもの。マンガ文化研究所所属教員のもと、編集会議、観光スポットの選定、取材・撮影、ストーリー構成・作画まで学生自身が参画。また、大手広告代理店からの依頼で、三重県人権センターがクライアントとなる人権問題啓発マンガは、同研究所監修によりマンガ学科の山岡真理子さんを中心に学生らが100ページにもわたる作品として描き上げた。社会人としての責任感をはぐくむためにも、学外で実際の仕事を学ぶことは貴重な経験。今後も表現研究機構と学生との連携が期待される。

発行：三重県／アルコ・イリス「虹のかけはし」

大学がつちかった"知"を社会に広く発信する

表現研究機構では、公開講座、展覧会、出版事業も実施。コミュニケーションすることを機軸に、個性ある研究所がそれぞれの表現方法で社会に"知"を発信している。

国内外で多彩なアートイベントを開催

表現研究機構は、日本だけでなく世界にも活動領域を広げる。映像メディア研究所は、開設以来さまざまなアートイベントを開催。ロンドンと日本をインターネットで結び遠隔地のアーティストが共同制作する「UK JAPAN NETWORK ART」ではライブの模様をインターネットで中継した。また、文字文明研究所では「石川九楊千文字展」、マンガ文化研究所では竹宮惠子「原画（ダッシュ）展」などを開催。作品は展示と同時に販売もされ事業収益にもつながった。

ライブプログラム「障子楽器」

第一線で活躍するゲストによる公開講座

文字文明研究所では、新しい角度から歴史や思想をとらえ直すことで、文字を読み解く公開講座を毎月開催。ゲスト講師には、加藤秀俊氏（社会学者・日本語国際センター所長）や養老孟司氏（解剖学者）といった第一線で活躍する顔ぶれがずらりとならぶ。また、マンガ文化研究所では、プロのマンガ家や評論家をゲストに迎え、マンガの可能性を討議。映像メディア研究所では、デジタル放送化時代を担う人材育成をめざす「市民映像ディレクター講座」を毎月開催、好評を得ている。

研究成果を出版化し社会に発信する

研究成果は出版物においても発信される。文字文明研究所では、社会に広く文字文化への魅力を伝えるため、機関誌『文字』を創刊。歴史や思想、古典などの多様な視点から文字文化を読み解く独自のスタイルにファンも多い。現在、創刊準備号I・II、創刊号、第二号の4冊が全国書店で発売中。（定価／2，000円（税別）発売／ミネルヴァ書房）。

COLUMN

日本マンガ学会の運営を支援

マンガを学問としてとらえ、マンガの可能性を考えることを目的に開設された「日本マンガ学会」。マンガ文化研究所は、「日本マンガ学会」の事務局としても活動しており、運営全般を支援している。

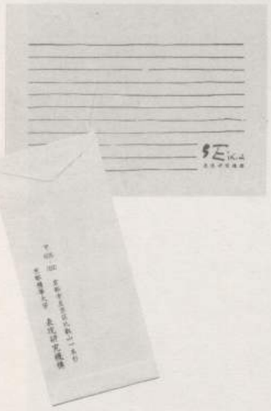
マンガに関する専門書やエッセイ、展覧会図録やマンガ雑誌のデータベースを構築。学会誌『マンガ研究』、「ニューズレター」『生誕日本マンガ学会』等を出版している。

また、「京都マンガフェスティバル」や「アジアMANGAサミット」など大規模なイベントへの参加をはじめ、「日本マンガ展」など独自にイベントを主催。第一線で活躍する研究家やマンガ家とのつながりが深いのもそのためである。

活版印刷機の風あいを現代に伝える

文字文明研究所に寄贈された活版印刷機「ドイツ・ハイデルベルグ・プラテン」。表現研究機構では、本機を実際に動かす体験学習講座を実施。活版印刷機のすばらしさをいまに伝えている。

また、同機によるオリジナル便箋・封筒セットも発売中。
問合せ／表現研究機構
TEL：075（705）2028



活躍する卒業生

インテリア雑貨を取り扱う通販サイト「アンジェ」(http://www.angers-web.com/)は、独自の品揃えに加え洗練された写真で商品を紹介し、安定した人気を集めている。インターネット上最大のショッピングコミュニティである楽天市場の「生活インテリア部門」で、サイトを立ち上げて以来3年連続1位、ヤフーショッピングでも「カスタマーケア賞」を受賞している。

岩塚さんは、そのサイトを運営する株式会社ふたば書房EC事業部に勤務している。入社してまだ1年3カ月ながら、商品管理課として、商品の管理や発注、新商品の調査、納品ルートの確認などメーカーとのやり取りをすべて任されている。

大学時代はゼミで広告論や比較文化論を研究するかたわら、学園祭には毎年参加し、本をたくさん読んだ。「おおらかな雰囲気が私に合っていた」と言う精華を卒業後、接客業をいくつか経て、インターネットで「アンジェ」のカスタマーサポート係の募集を見つけて応募する。入社後ほどなく商品管理課に異動し「バイヤーが選んできた商品をどうすれば売れるか」をスタッフと共に追求する日々が続いている。

ある商品を、あるタイミングで、ほんの少し見せ方を変えるだけでその売上が急に伸びる。工夫に対して反応がダイレクトに返ってくるところがおもしろい。責任の大きさと比例して勤務時間も長くなるが、仕入れ・商品管理・受注・顧客サポート・Web制作等、それぞれの担当者が一丸となってひとつのお店を作り上げているという実感と手応えがある。通販につきもののクレームももちろんあるが、「想像していた商品とは違った」と苦情を言った人に、理由を聞き謝罪し、心をこめた個別の対応で、逆にファンにさせてしまうことも多いという。

岩塚さんの「Webサイトのページにも顧客対応にも手間をかけている」という話から「アンジェ」の、売上だけではなく顧客満足度にも高い評価を受ける人気の理由がわかった。「これからは新商品の仕入れもやってみたい。通販サイトの可能性をまだまだ感じる」という岩塚さんの活躍に期待したい。

岩塚真由美さん　人文学部人文学科卒業（98L038）

活躍する在校生

ファン・デイン・アン・コアさん

芸術学部デザイン学科VCD分野3回生（201V032）

第71回毎日広告デザイン賞・一般公募・発言広告の部で、その広告作品は優秀賞に選ばれた。日本の代表的デザインコンペにおいて最高賞に次ぐ栄誉が与えられた『ドクちゃんのアピール』と題されたその作品は、確かに見る人を惹きつける。ベトナム戦争で米軍が使用した枯れ葉剤の影響とみられる結合体双生児として生まれたドクちゃんが手を振る写真に、「ベトナム戦争はまだ終っていない」というコピーがついている。作者であるファン・デイン・アン・コアさんは、「受賞する自信はあった」と笑う。

「戦争や戦争の残す傷跡を身近に感じているからこのテーマにした」という彼は、ベトナム出身の24歳。少年時代、日本を紹介するパンフレットを目にして、日本の魅力にとりつかれた。日本の文化や自然に惹かれ、ベトナムの大学を2回生途中で辞め、99年秋に日本へ留学。1年半日本語を学んだ後、京都精華大学へ入学。以前より写真や映像でメッセージを伝えるものに興味があったので、迷わずVCD分野を選んだ。

ファンさんが今回の作品に自信があったと言いきるのは、制作の苦労が大きかったからだ。構想、制作に丸4ヶ月かかった。ドクちゃんを取り上げることを決めてからも、その取材の難しさ、表現の制限に悩まされた。写真と文字の組み合わせは10パターン以上作った。提出し終わってからは、しばらく何を作る気も起きなかったほどだ。

現在は映像作品を構想中。今まではメッセージ性の強い真面目なものが多かったので『軽いノリのカッコイイもの』を作ろうと思っている、というファンさんには、目標とするデザイナーや芸術家はいない。自分は自分でしかないから、目指すものは自分の完成形だけ。そして、その考えを支えてくれる精華の先生たちと出会ったことで力づけられたと言う。

大学卒業後は、広告会社で実践を積んでから、ベトナムでデザインを教える仕事をしたい。作品が完成した瞬間が一番嬉しいので制作は続けていきたいが、ベトナムではまだまだデザイナーを育てる環境がないため、後進を育てることの必要性を強く感じていると言う。彼は制作においてだけではなく自分の将来も社会的観点で見ている。

同窓会木野会に近畿支部設立

母校の発展と卒業生の親睦を深めるため、2003年6月14日、京都精華大学同窓会「木野会」の近畿支部が設立された。近畿支部は、すでに設立されている滋賀支部をのぞく、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、奈良県の2府3県から成り立ち、今後様々なイベントの企画、実行が予定されている。

イベント奈良開催のお知らせ

その近畿支部の第1回主催企画として『イベント奈良』の開催が決定。参加申込は近畿支部事務局まで。

日時　……2004年5月22日（土）
集合　……JR奈良駅（東側改札口）11時
会費　…5500円（にぎり墨体験料含む）

●にぎり墨体験
11時15分～12時　「三条会館」にて墨の生産地として有名な奈良でにぎり墨を体験。

●親睦会
12時30分～14時30分　「あしびの郷」にて奈良の郷土料理で宴会型食事会を開催。

京都精華大学同窓会木野会
〈近畿支部事務局〉
支部長　前田好雄
〒616-8255
京都市右京区鳴滝音戸山町4-102
前田好雄方
Eメール　maeda-sairenken@kyoto.zaq.ne.jp
TEL　075-462-6484
FAX　075-462-6484

2003年度大学人事体制

2003年度大学役職者は以下の通りであった。

学長――中尾ハジメ
芸術学部長――黒崎　彰
人文学部長――梶川よ志子
大学院芸術研究科長――麻田脩二
大学院人文学研究科長――中島勝住
教務部長――葉山　勉
国際交流室長――澤田昌人
情報館長――松谷昌順
学生部長――小川聡
就職部長――井上弘次
大学事務局長――福岡正藏

新任・退職の専任教職員

2003年度新任・退職の教職員は以下の通り。

●2003年度新任教職員
・赤山仁――芸術学部デザイン学科映像分野
・申昌浩――人文学部社会メディア学科
・西研――人文学部社会メディア学科
・服部静枝――人文学部環境社会学科
・末次智――人文学部文化表現学科
・前田茂――人文学部文化表現学科
・籔内智――人文学部文化表現学科
・小島弘巳――事務局職員

●2003年度退職教職員
・齋藤忠男――芸術学部デザイン学科PCD分野
・山本順也――芸術学部マンガ学科ストーリーマンガ分野
・井上弘次――事務局職員
・景山喜巳――事務局職員
・小松泰信――事務局職員
・藤岡昭治――事務局職員

木野評論　新刊発売

木野評論35号は写真表現を特集

京都精華大学が編集発行する評論誌『木野評論』第35号の特集は「いま、カメラが見つめる先―写真表現のトランジション」と題して写真表現を取り上げている。

巻頭座談会には、写真家の荒木経惟、長島有里枝、評論家の大竹昭子らが参加。これから写真に期待される役割を、写真表現の現在を語ることで浮かび上がらせている。また、「視線をめぐる転換」「記録と報道の変化」「写真社会の移行」等、それぞれのトランジションを写真家や評論家が様々な視点から語っている。ほか、「セレクション・オブ・フォトアルバム」では飯島洋一、島尾伸三らがお薦めの写真集を紹介。ストーリーマンガ学科の学生が作画する「Go!カメラ」はカメラの基礎知識をマンガで分かりやすく解説している。連載「戦争と思想の問題」では、批評家の宮崎哲弥、木野評論編集長鈴木隆之が「自閉的日本人」にとっての戦争や平和の概念について問いを投げかけている。

全国有名書店にて取扱い
（発行・京都精華大学情報館、発売・青幻舎）。

GARDEN 公開講座ガーデン

"GARDEN"は、ひとつのテーマについて連続で探究する公開講座です。「知」を大学から開放する講座やワークショップを設け、各領域の第一人者から小人数クラスで直接指導を受ける形式で行っています。単なる教養講座の枠を超えて、思想と表現の深化の追求をめざしています。

・デザイン講座
～ポスター・チラシ・フライヤーをつくろう（DTP編）～
・ラジオ番組制作講座
～自分の番組を作ってみよう！～
・版画制作講座　～木版画への誘い～
・実践英会話講座（初級）
～はじめての英会話～
・実践英会話講座（中級編）
～芸術留学希望者のための英会話～
・短歌講座
～現代短歌の読みかた、作りかた～
・宗教論講座　～生と死を考える～
・紅彫画―BENIBORI―制作講座
～刀で描く紅彫画から～
・紙漉き講座　～和紙をつくる～
・音楽表現講座
～音楽の自由：フリーミュージックの系譜～
・身体表現講座
～コンテンポラリー・ダンス・ワークショップ～
・文章入門講座（無料）
・囲碁「楽碁会」（無料）
・中高年のためのパソコン教室（無料）

■提携プログラム
・金箔「箔押し体験」工房
・陶芸工房「御菩薩焼（みぞろやき）」

2004年度前期パンフレット（無料）ご希望の方はガーデン事務局まで。
メール・FAX・ハガキに「パンフレット希望」と明記の上、氏名、郵便番号、住所、電話番号をご記入ください。お電話でも受付いたします。

○問合せ先
京都精華大学文化情報課
GARDEN事務局
〒606-8588
京都市左京区岩倉木野町137番地
TEL：075-702-5343
FAX：075-705-4076
E-mail：garden@kyoto-seika.ac.jp

GALLERY FLEUR ギャラリーフロール

ギャラリーフロールは京都精華大学情報館の博物館部門が運営する大学ギャラリーです。1997年10月に開館し、資料の収集・保存、展覧会の開催など様々な活動をとおして、学内外の多くの方々に利用される、開かれたギャラリーとなることをめざしています。

●2004年度前期展覧会予定
4月17日（土）～5月9日（日）ギャラリーフロール所蔵品展「ジョセフ・アルバース展」
5月13日（木）～5月17日（月）ケータイの現在・過去・未来展
5月20日（木）～5月30日（日）版読展
6月3日（木）～6月8日（火）春期フィールドワーク報告展
6月10日（木）～6月15日（火）京都精華大学留学生展覧会
6月26日（土）～7月25日（日）安土修三ガリバー展

2002年度決算及び2003年度予算について

［概要］

2002年度の帰属収入は、約57億円でした。このうち学生納付金は85％を占めています。

この中から、隣接山林の購入、大学に隣接する食堂「れあた」の新築、エクステンション講座や同窓会室等多目的用途の大学隣接建物「e-box」の改修工事等で8500万円の施設関係支出を行ないました。また、情報処理教育用パソコンの増設・更新をはじめ、その他の機器、図書等で1億7300万円の設備関係支出を行ないました。これらを含め大学の基本財産取得に関わる基本金組入額は約5億7000万円でした。

消費支出（人件費・経費等）は約48億円となり、2002年度の消費収支は約3億3500万円の収入超過となりました。この結果、2003年度への繰越消費支出超過額はおよそ14億円となりました。

資産の総額の増加と借入金の減少の結果、自己資金率は1・2パーセント増加し、78・6パーセントになり、より健全な財政状態となりました。

2003年度予算では、狭隘となっている本館の増築工事、留学生寮の新設（土地・建物の購入と改修）を実施し、あわせて既存建物の改修工事、教育諸設備の充実を行なう施設・設備整備計画を盛り込んでいます。また、受託事業等により外部資金を積極的に導入し、増収と教育研究活動の活性化を図ります。

消費収支予算では、約1億3000万円の収入超過となります。

2002（平成14）年度資金収支計算書

2002（平成14）年4月1日から
2003（平成15）年3月31日まで（単位：千円）

収入の部	
科目	金額
学生納付金収入	4,894,537
手数料収入	161,320
寄付金収入	21,807
補助金収入	470,786
資産運用収入	57,006
資産売却収入	600,023
事業収入	66,092
雑収入	49,812
借入金収入	7,646
前受金収入	1,399,949
その他の収入	382,203
資金収入調整勘定	△1,392,035
前年度繰越支払資金	3,288,623
収入の部合計	10,007,769
支出の部	
科目	金額
人件費支出	2,369,590
教育研究経費支出	1,209,800
管理経費支出	482,559
借入金等利息支出	103,438
借入金等返済支出	313,110
施設関係支出	85,173
設備関係支出	173,010
資産運用支出	301,583
その他の支出	160,240
資金支出調整勘定	△102,304
次年度繰越支払資金	4,911,570
支出の部合計	10,007,769

2002（平成14）年度消費収支計算書

2002（平成14）年4月1日から
2003（平成15）年3月31日まで（単位：千円）

消費収入の部	
科目	金額
学生納付金	4,894,537
手数料	161,320
寄付金	25,590
補助金	470,786
資産運用収入	57,006
資産売却差額	533
事業収入	66,092
雑収入	49,812
帰属収入合計	5,725,676
基本金組入額合計	△567,961
消費収入の部合計	5,157,715
消費支出の部	
科目	金額
人件費	2,352,943
教育研究経費	1,798,602
管理経費	547,676
借入金等利息	103,438
資産処分差額	570
徴収不能額	19,549
消費支出の部合計	4,822,778
当年度消費収入超過額	334,937
前年度繰越消費支出超過額	1,747,787
翌年度繰越消費支出超過額	1,412,850

2003（平成15）年度資金収支予算書

2003（平成15）年4月1日から
2004（平成16）年3月31日まで（単位：千円）

収入の部	
科目	金額
学生納付金収入	5,077,399
手数料収入	133,250
寄付金収入	22,000
補助金収入	376,600
資産運用収入	51,000
資産売却収入	1,107,500
事業収入	63,800
雑収入	16,150
借入金収入	0
前受金収入	1,376,000
その他の収入	286,662
資金収入調整勘定	△1,539,948
前年度繰越支払資金	4,911,570
収入の部合計	11,881,983
支出の部	
科目	金額
人件費支出	2,436,185
教育研究経費支出	1,172,608
管理経費支出	453,139
借入金等利息支出	92,538
借入金等返済支出	262,930
施設関係支出	376,000
設備関係支出	105,900
資産運用支出	1,000,000
その他の支出	170,477
予備費	80,000
資金支出調整勘定	△78,831
次年度繰越支払資金	5,811,037
支出の部合計	11,881,983

貸借対照表

2003（平成15）年3月31日現在（単位:千円）

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	18,006,127	18,689,233	△683,106
有形固定資産	15,838,715	16,231,079	△392,364
土地	4,050,793	4,040,963	9,830
建物	9,031,677	9,295,975	△264,298
構築物	618,730	677,059	△58,329
教育研究用機器備品	1,171,583	1,295,987	△124,404
その他の機器備品	72,671	68,487	4,184
図書	893,127	852,332	40,795
車輌	134	276	△142
建設仮勘定	0	0	0
その他の固定資産	2,167,412	2,458,154	△290,742
電話加入権	3,566	3,566	0
有価証券	1,146,860	1,446,360	△299,500
長期貸付金	361,786	352,869	8,917
退職給与引当特定資産	495,200	495,200	0
第3号基本金引当資産	150,000	150,000	0
保証金	10,000	10,159	△159
流動資産	5,461,771	3,988,315	1,473,456
現金預金	4,911,570	3,288,623	1,622,947
未収入金	198,498	347,324	△148,826
短期貸付金	2,568	3,049	△481
有価証券	317,140	315,547	1,593
立替金	10,651	5,224	5,427
前払金	1,831	1,831	0
仮払金	19,513	26,717	△7,204
資産の部合計	23,467,898	22,677,548	790,350

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	3,089,307	3,361,238	△271,931
長期借入金	2,496,946	2,752,230	△255,284
退職給与引当金	592,361	609,008	△16,647
流動負債	1,923,790	1,764,407	159,383
短期借入金	262,930	313,110	△50,180
未払金	114,882	99,530	15,352
前受金	1,399,949	1,211,136	188,813
預り金	146,029	140,631	5,398
負債の部合計	5,013,097	5,125,645	△112,548
基本金の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	19,388,651	18,843,690	544,961
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	150,000	150,000	0
第4号基本金	329,000	306,000	23,000
基本金の部合計	19,867,651	19,299,690	567,961
消費収支差額の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	1,412,850	1,747,787	△334,937
消費収支差額の部合計	△1,412,850	△1,747,787	334,937
科目	本年度末	前年度末	増減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	23,467,898	22,677,548	790,350

木野通信第37号 2004年3月24日発行
京都精華大学 〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137 TEL 075-702-5201 http://www.kyoto-seika.ac.jp